

## 創立百二十周年を迎える 新たな未来に向けて

PTA会長 堀内慎也

令和二年度、PTA会長職をお預かりしております。堀内慎也と申します。保護者の皆様、また教職員の皆様には、日頃よりPTAの活動に、ご理解ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて本年度、都留高校は創立百二十周年を迎える中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言が発令されるという状況下で新年度がスタートしました。

臨時休校、高校総体をはじめとした学校行事やPTA活動の中止、縮小を余儀なくされた一年間、生徒の皆さん、また保護者の皆様も大きな不安を抱えての年となりました。

教職員の皆様には、この様な誰もが経験した事のない状況にもかかわらず、生徒の為にご尽力いただいております事を、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

折しも今年度は、大学入試制度が、大学共通テストに変わる年度でもあり、世の中の情勢を見ましても日々の生活や仕事、それぞれの行動に変化が求められる年となりました。



PTA常任役員会

# 都留高 P T A だより

令和3年3月1日発行  
都留高校 P T A  
印刷業大月プリント社

「自由に進路選択できることが当たり前ではない」

「失敗を恐れずに何事にもチャレンジしていくく」

「物質的に恵まれた、今現在の何不自由ない生活に感謝の気持ちを持つ」

「これから社会を変えていくのは自分たちの世代」

「これは、十一月二日に開催された『学校評議員と高校生との意見交換会』に参加した生徒の感想の一部です。」

「本校の教育目標を踏まえ、地域の人と高校生との意見交換を実施することによって、今後の学校運営に資することを目的に、法令でその実施が定められている『学校評議員会』として初めて行いました。」

参加者は学校評議員さん五名（中学校校長・同窓生）・（企業経営者・同窓生）・（医師・同窓生）・（大学准教授）・（PTA役員・同窓生）など



## 都留高生の 今（現在）と未来（将来）

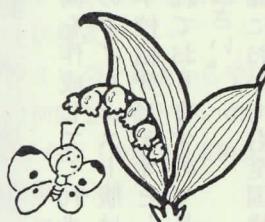
校長 渡邊信介

二年次生男女五名でした。

「都留高生の今（現在）と未来（将来）」をメインテーマに①進路選択・将来設計②世代間（親・自分・子）の相違③地域の将来像の三点について、世代を超えて受け継がれている地元のお菓子「厚焼木の実煎餅」を食べながら、和やかな雰囲気の中で、自由に意見交換を行いました。

あつという間に時間が経ってしまい、予定時間を過ぎてなお、まだ話し足りないような充実した会となりました。

なお、この会の内容の一部は、来年度の関東地区高等学校PTA大会において、本校PTA代表が発表する予定です。



## 理想のPTA（保護者と教員の連携）とは？

三年次主任 大神田治雄

先日、歩くことも困難な腰痛に襲われました。寝返りを打つのもつらい夜を過ごしていた時に、ふと以前指導していた部活動の教え子のお父さんが、腕利きの整体師であることを思い出し、時間外に特別に診てもらいました。五年ぶりの再会でした。”拷問”といふ名の治療を受けながら、当時のことを思い出し、昔話に花を咲かせました。

私が顧問をしていた部活動は、関東大会や全国大会にも毎年出場する部でしたので、保護者会も非常に活発で、県内の大会はもちろん、県外の大会にも足を運んでください、

### 生徒の健闘にエールを～コロナ禍での新入試制度～

進路指導主事 小澤幸生



保護者の皆様には、日頃より本校進路指導係の活動に御理解と御協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、この一年を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度末からの臨時休校が五月末まで続き、三年次生にとっての受験生としての自覚や決

意を十分持てないままのスタートになつたこととと思います。御家族にとりましても、ただでさえ不安を感じる入試が、「学力の三要素」の評価、大学入学共通テストへの移行等新しい制度へと転換し、さらにコロナ禍による日程や受験方法の変更を余儀なくされました。本校においても模擬試験の実施方法や土曜学習会等の

声を枯らしながら応援してくれました。また、保護者会総会も年に数回行われ、会議後はお酒の力も借り、膝を突き合わせて大いに語り合いました。話の中心はもちろん子どもたちで、競技のこと、学校や家庭での様子、進路など、生徒本人と話し合う以上にコミュニケーションを取ったこともあります。おかげで、良好な信頼関係が構築でき、生徒の進路実現や人としての成長に、保護者も教員も大きく貢献できたのではないかと思います。

部活動の顧問と保護者という立ち位置でしたが、それと同様に、保護者も教員も大きな成長に、保護者も教員も大きく貢献できたのではないかと思います。最後になりましたが、三年間の温かいご支援に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

一方、六月に実施していた若鶴祭も、授業進行の関係で延期と決まり、夏の猛暑の中での学園祭実施は不可能と判断。しかし生徒たちは「リモートで何かできないか」と動画作成を発案、短い準備期間ながらも各ブロックともすばらしく動画を作成してくれました。このダイジェスト版は本校HP学校紹介ビデオとして掲載しておりますので是非ご覧ください。

## 生徒会活動

生徒会指導主事 鈴木康弘

同じような関係をクラスや年、学校でも築くことができないものかと日々思いを巡らせております。今後少子化が

加速していく中で、保護者と教職員が、一人一人の子ども

しい動画を作成してくれまし

た。このダイジェスト版は本

校HP学校紹介ビデオとして

一緒に考えていくことがさらに関要になるのではないで

しょうか。まずはお互いが対

等の立場で子どもの教育に携わっていることを認識し、懇

談や授業参観以外にも、できる限りコミュニケーションをとる中で、それぞれの専門性（得意分野）を生かし、子ども

の健やかな成長に繋がればいいなあと思っています。最後

文化部においても全国総文

祭高知大会がウェブ開催となりましたが、書道部の作品が優秀賞に選ばれ、東京に展示されました。また県高校芸術文化祭において合唱部、文芸部、新聞同好会が来年度総文祭和歌山大会への出場を決めました。

少しですが生徒の活動も活発になりましたが、感染者

およびクラスターを発生させないための努力を継続しつつ、今できることを頑張ってもらいたいと思っています。

内容を練り直すなどの対応をすることとなりました。

そのような状況下でも、生徒たちは「新しい生活様式」に順応し、今自分たちにできることは何かを真剣に考え、授業や部活動、また学校行事等に粘り強く取り組み、その成果を発揮してきました。まさに先の見通しが難しく、正解のわからない中であっても、たくましく成長する姿を見せてくれています。

## コロナ禍でのSA事業

連携推進主任 木内政美

何ができる、何ができないのか、常に模索しながらの今年度のSAプロジェクトの運営でした。外部に行く行事は夏休み前、軒並み中止になりました。それでも夏休み中には「都留第二中学校フオローアップ教室」を行うことができました。この行事の目的は①教えることを通じて、伝えることとの難しさを学び、またより良い伝え方を学ぶ②中学生の都留高校への関心を高める、ことです。課題もありますが教えることで自分の理解力も進んだようです。夏休み以降は、一年次生が富士急行株式会社への訪問や都留文科大学への訪問、東京都立大学への訪問を行なうことができました。

昨年度末に急遽中止となつた「グローバル研修」ですが、今年度もコロナ禍の中で、残念ながら中止となってしまいました。

今後も新しい学力観の下、できる範囲の中で、外部との連携に努めています。

立大学、山梨大学等に百名ほどが進路決定しております。そして、生徒たちはこれに続けてさらに努力を重ねているところですので、全員が志望校への合格を勝ち取れるよう保護者と教職員が一体となつてエールを送り続けましょう。



富士急行株式会社訪問

### R2 「都留高探究プロジェクト」 主な研究テーマ

- ・駅前商店街～高校生が考える地域活性化～
- ・大月空襲を次世代に伝える
- ・地方自治が私たちの生活に果たす役割
- ・うまい棒からみるヒット商品の秘密
- ・#blacklivesmatter
- ・バンクシーから学ぶ芸術の力
- ・宗教と食文化
- ・本好きを増やすには
- ・脱スマホ計画
- ・勉強と音楽
- ・新型コロナウィルス (COVID-19)  
新しい生活様式について
- ・プログラミングを基礎から学ぼう
- ・うどんは何回こねるといいのか？
- ・発酵食品と免疫（培地の仮実験&消毒の効果）
- ・光合成色素の分析
- ・錯視の多様性

## 令和二年度『都留高探究プロジェクト』について

総合企画係 山崎一良

生徒自身の体験活動を取り入れる本校独自の課題研究プログラムである「都留高探究プロジェクト」(つる探)では、今年も一・二年次生全員が各グループに分かれて研究に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の流行で休校期間が続いたため、研究が約一ヶ月遅れで始まり、課題研究の特色である「体験活動」にも多くの制約が課される中で、生徒たちは今年もひたむきに研究を続けました。今年のテーマは、「感染症」に関するもの、地元の政治や経済活動に目を向けたもの、スマホとのつきあい方など、生徒にとって「身近」に感じられるテーマは

もちろん、プログラミングやアプリに関するもの、生物や化学・地学などの学術的研究に富んでおり、生徒たちが達成できているとの手応えを感じます。今後も「つる探」を通して、生徒の課題解決能力を育てるとともに、地域を担う人材を育成すべく学校一丸となつてサポートしていくたいと考えております。保護者の皆様方にも、引き続き、本プロジェクトへのご理解・ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。



上：大月市長さんへのインタビュー

左：中間発表会

# 昔高校生だった大人から都留高生へ 伝えたいこと

PTA女性部長 下澤雅美

山梨県教育委員会より、「都留高等学校学校評議員」に委嘱され、PTA女性部長として(同窓生としても)、学校運営に對して意見を述べ助言する役割をいただきました。

十一月二日に、第一回学校評議員会が開催され、委嘱と高校生の代表五名との意見交換を行いました。校長、教頭、生徒指導主事の各先生方も含めて、高校時代から今の職業に至るまでの自己紹介と、高校生活や進路についての意見交換を行いました。高校生にとって、身内以外からそのような話を聞く機会は少ないと

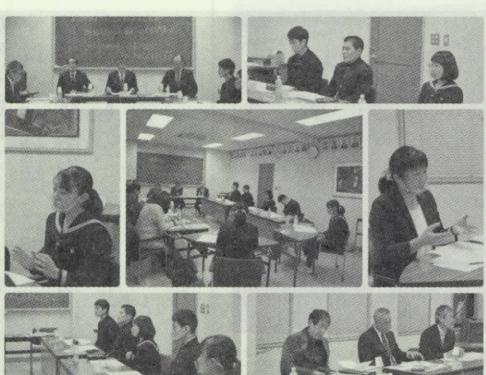
思われ、世の中には人それぞれ様々な経験をして今があるということを感じてもらえたのではないかと思います。

「学力」だけでなく、これから社会を生き抜く「人間力」を育む取り組みや連携がなされている事や、地域の方々が温かいまなざしで都留高生を見守っている事も再確認でき、もっと話を聞きたい、思いを伝えたいと思う、とても良い会となりました。

進路、職業を考える中で、自分の得意なこと、頑張ることをどのように活かすのか、世の中には多様な仕事があり、

自分に合った仕事を見つけられるかななど、「行動する」とことへのきっかけとなれば幸いです。

将来なりたい自分になるための道は、決して一つではないことを心に留めておいてほしいと思います。



## マナーアップ運動に参加して

南都留支部長 遠山廣明

今年度、支部役員としてマナーアップ運動に参加しました。生徒の通学時に、通学状況や挨拶の推進を行う運動です。

そこから人との会話が始まるなどを覚えて、いつてほしいと思います。

今年度、支部役員としてマナーアップ運動に参加しました。生徒の通学時に、通学状況や挨拶の推進を行う運動です。高校生の年齢になると、自然に挨拶をかけるようになります。高校生の年齢になると、自然に挨拶をかけることがあります。また、声を出しても恥ずかしいことがあります。

次第に大人になり、社会の常識や礼儀の大切さを痛感するときがあります。また、声を出しても恥ずかしいことがあります。

次第に大人になり、社会の常識や礼儀の大切さを痛感するときがあります。また、声を出しても恥ずかしいことではなく、気持ちよく挨拶を交わしていました。

今年度、支部役員としてマナーアップ運動に参加しました。生徒の通学時に、通学状況や挨拶の推進を行う運動です。高校生の年齢になると、自然に挨拶をかけることがあります。また、声を出しても恥ずかしいことがあります。

# フードドライブへの協力を通じて

三年次副部会長 坂本美智子

フードドライブとは、家庭で余っている食品を学校や職場に持ち寄り、それらをまとめてフードバンク団体や福祉施設などに寄付する活動で、

NPO法人フードバンク山梨では、夏休みや冬休みの学校給食がない期間、十分に食事や栄養が摂りにくい子供達に食糧支援の活動をしています。

都留高校家庭クラブ委員会では、平成三十年度から「フードバンクこども支援プロジェクト」への食品寄付を募る活

動に賛同しています。

都留高校PTA女性部も、この活動に協力し、夏休みに集まつたダンボール箱八箱の

食品を、家庭クラブ委員の代表と一緒に、南アルプス市にあるフードバンク山梨へ運ぶお手伝いをしました。コロナ禍でPTA活動ができない中、参加することができた数少ない活動でした。来年度以降もこの活動に、引き続き協力していきたいと思います。

都留高校家庭クラブ委員会では、平成三十年度から「フードバンクこども支援プロジェクト」への食品寄付を募る活

動に賛同しています。



編 集 後 記



本年度は新型コロナウイルスのため、全てのことに戸惑うばかりの一年でした。行事の中止や内容変更により、PTAの活動も制限されました。が、感染拡大防止の対策を取り実施できたものもあり、この紙面にてご報告できたことをホッとしております。

本紙発行にあたり、各対応にお忙しい中寄稿してくださいました先生方、役員の皆様には深くお礼申上げます。

女性部一同